令和６年１１月２８日

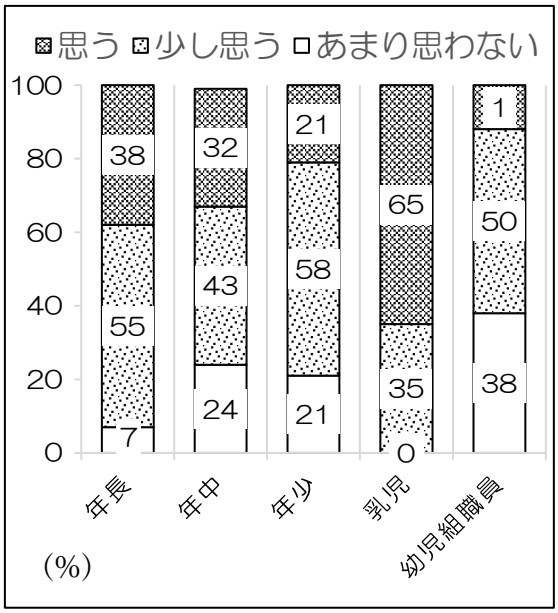
令和６年度　学校評価（１０月中間評価）分析

呉あそか幼稚園

１　結果の考察と改善点

①（幼）場に応じた挨拶を自分からしている
（乳）言葉やしぐさで生活に必要な挨拶をしている

肯定的評価は高いが、「少し思う」が多く
「思う」は少ない。学年が上がるにつれて
評価が高くなっている。

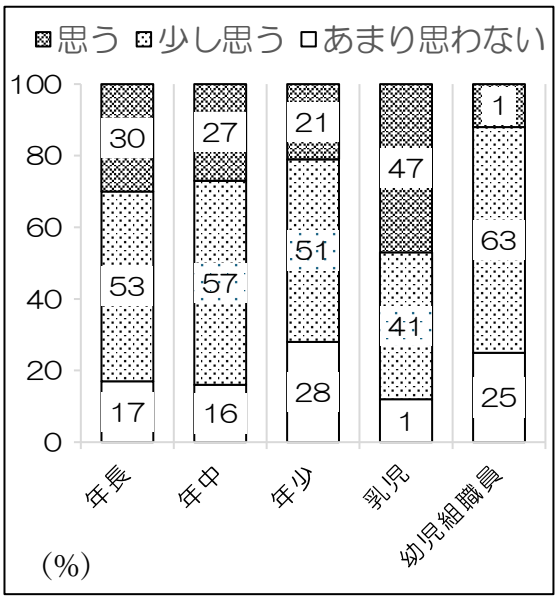


今後の取り組みと改善策

挨拶の大切さをわかりやすく繰り返し伝えていく。
スキルを身に着けるためにクラスで練習をするなど
気持ちの良い挨拶を体感させながら、挨拶に
慣れていく。

②（幼）使ったものを丁寧に片付けている
（乳）おもちゃ、絵本など物の扱い方を知り、決まった場所にもどしている

肯定的な評価は受けているが、内訳の差が大きい。
丁寧にという表現から評価が下がったように考え
られる。

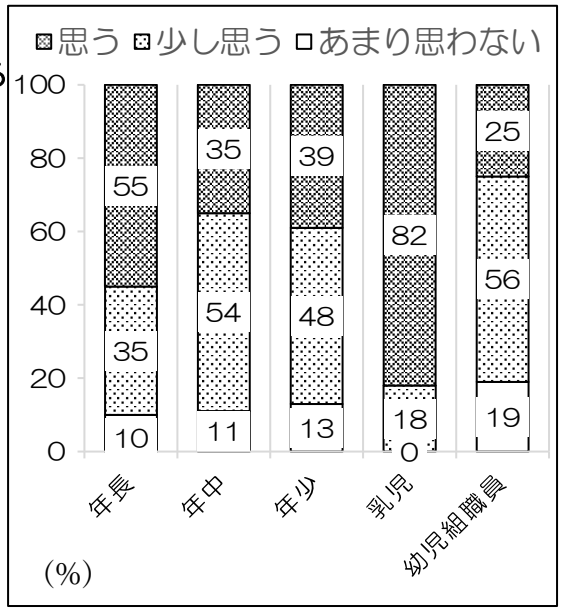


今後の取り組みと改善策

学年に応じた指導を行い、評価をしていく。
片付け方を写真に撮りおもちゃ箱に貼ることで可視化
していく。片付けが得意な子どもをほめることで
意識をさせていく。

③（幼）自分なりの目標を持ち、続けてかんばろうとしている
（乳）自分でできたことを喜び、続けてがんばろうとしている

年長・年中は肯定的な評価が多かった。
今後も個々の力を伸ばしていきたい。



今後の取り組みと改善策

それぞれの目標を言葉にして発表する。
目標が見つからなくても友だちの目標が参考に
なることもある。自分の目標が持てない子どもには
提案をして支援していく。
乳児は家庭環境の変化や病気などの影響を受けやすいため
保育士の細かい支援が必要であり、子どもと一緒に喜び、
一緒に続けるようにする。

④教職員は、笑顔でやさしく子どもに接している
⑤教職員は、礼儀正しく言葉遣いも丁寧である
⑥教職員は、子どものことで保護者と連携している
④⑤については保護者からの肯定的な評価が多い。⑥の教職員と保護者との連携についても肯定的な評価は多いが、教職員によって異なるという意見もあった。

今後の取り組みと改善策
引き続きがんばりたい。正しい言葉遣いができているか職員間で確認をしながら、研修などを実施して定着をはかっていく。情報提供のための連絡とともに、子どもの成長につながる連携をとっていく。

２　評価委員からの助言・意見(１０月５日学校評価委員会にて)

（１）　評価結果に(保護者アンケート、職員自己評価)について

- 本年度の学校評価は“評価項目”についての“成果指標”がより具体的化され、評価も肯定的評価２段階、否定的評価２段階の４段階評価で行う工夫をしている。評価項目によっては保護者と教職員の見方の差がある。このことは評価の視点が個と集団という立場の違いによるものと思われるが、どちらにしても目指す方向は“成果指標”にいかに近づくかということにある。
- 「あまり思わない」「思わない」が目立って多かった項目に注目するとよい。
  今回細かい成果指標がでたのが良い。そこから具体的に考えやすい。
- 教職員について肯定的評価が多くみられたが、子どもに関する項目については肯定的な評価が低いものもある。それは保護者も教職員も同じように感じていると思われる。

（２）　結果の考察と改善策について

- 重点目標「信頼される教職員」についての３項目は保護者から高い肯定的評価を受けており、こうしたことから、今後とも園と家庭のとの協力体制を基盤とした日々の取り組みの積み重ねによって、各評価項目の保護者・職員の評価における“少し思う”を“思う”に改善してく努力が大切となる。
- 挨拶、片付け、意見のやり取り、目標に向けて規範的なものは必要である。しかし、様々な場面で大切な学びがあるので、成長の段階でしっかり受け止めながら促していってほしい。この年代のうちにたくさん経験を重ねてほしい。
  保護者には園と一丸となって子ども達の成長のための具体的な協力を求めたい。
- 肯定的な評価については引き続き継続していただきたい。一方で評価が低い部分に関しては具体的なことを保護者にも教職員にもわかりやすく、伝えたらよい。
  電話での連絡が長くなることがあり、他の保護者連携ができにくくなることがあるので、１人１０分以内というのを保護者に理解していただき、多くの保護者との連携の機会を増やすとよい。

この度は学校評価(10 月)のアンケートにご協力くださり、ありがとうございました。
皆様の回答を分析し、改善策を以上のように報告させていただきます。